

2017年11月5日(日)

主 題:『『信仰によって』とはどういうこと？

—約束の言葉に従う—

テキスト:ヘブル人への手紙11章8-16節

はじめに

- ・NHK テレビ番組で、「ファミリー・ヒストリー」という長寿番組があります。2008年にこの番組が始まり、約10年間続いています。ご覧になった方々も、おられると思います。著名人の出生と家庭のルーツを掘り下げる番組で、高視聴率と聞いています。
- ・人は誰でも自分のヒストリーがあります。「ファミリー・ヒストリー」というTV番組に出なくても、自分の人生を振り返り、「自分史」を書く人が多くなって来たそうです。自分の出生と生い立ちから始まり、今までたどり着いた歴史を書くのです。それは、後生の人たちへ残す一つのレガシー（遺産）ともなりましょう。
- ・ただ趣味として書くものではありません。自分がどんな生き方をして来たか、その間にどれほど多くの困難があつて、それをどのように乗り越えたかを書きます。また、どのように失敗したかを書き留めることによって、自分を整理することにもなります。「自分史」は、知っている限り、まず自分の過去の古い時点から書き始めます。
- ・しかし、同じ人間の歴史でも、信仰という観点から見た場合、もっと違った所から書き始めをします。それは神との関係であります。ヘブル人への手紙の著者は、アブラハムのストーリーをその視点で書きました。すなわち「信仰によって」という観点です。こ11章だけで、少なくとも20回も「信仰によって」という言葉が出てきます。いったい「信仰によって」とは、どういうことでしょうか。そこで私たちは、アブラハムの「ファミリーストーリー」から学びたいと思います。

大切なポイント

1 アブラハムの自分史

1) 「信仰によって」

- 11:8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかわからないで、出て行きました。
- ・アブラハムは信仰の父と呼ばれていますが、いつ、どのようにして、神を信じるようになったかは、よくわかりません。しかし彼には神を信じる信仰があつたことは確かです。著者はそこから書いています。それはどういうことでしょうか。創世記
- 12:1 その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。
- 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。
- ・これは、神がアブラハムと契約を結ばれた祝福の言葉です。アブラハムはこの言葉を受けて、「行き先もよく分らないで出て行きました。それがどういう所かわからないのに、「信仰によって」神のお言葉に単純（素直）に従ったということです。ここに神の言葉に従うことが、信仰なのだということが教えられます。
- ・つまり、信仰とは人間の常識で行動するのではなく、神のみ言葉に従うことです。私たちの失敗は、自分の常識を神の言葉より優先させてしまうことがあります。ある人は、「確かに聖書にはそのように書いてあります。しかし、現実はそうは行かないのですよ。」それ

は、自分では気づいていないのですが、「現実の問題は、神より自分の方が知っている。」ということですが。

- ・また別の人は、「神はそう言っておられるかもしれませんが、私は信仰が弱くて、それに従っていけないのです。」と言います。しかし、もしそうであれば、信仰が強められますよう、祈ったら良いのです。からし種一粒ほどの信仰でも、生きた本当の信仰が与えられるよう、祈るべきではないでしょうか。
- ・皆さん！ もし、これから先、どうなって行くかが全て分かってから行動をするならば、信仰は不要です。信仰というのは、これから先どうなっていくかが不明であっても、神が「行きなさい」と言われれば、「行く」という姿勢です。
- ・つまり、自分の知識や経験によって作られた常識よりも、神の知識(み言葉)の方がはるかに万全であると考えるところから生まれます。それが「信仰によって」生きる人の基本にある考え方です。ですから「信仰によって」生きるとは、危ないように見えます。しかし、これ以上に確かなものはありません。ですから、アブラハムは「約束の地へ行きなさい。」と神から命令を聞いた時、それに従い、行き先も知らないまま出て行きました。
 {例 話} “彼の指示にすべて従ってください。”
- ・先日、次のような話を耳にしました。南アフリカのある印刷会社が、アメリカのシカゴにある有名な印刷機を購入しました。しかし、大金を払って買った機会が、しばらくして故障してしまいました。販売元に問い合わせ、修理方法を聞きましたが、なにしろ専門的知識が必要で直せませんでした。
- ・結局、販売会社であるアメリカの会社に技術者の派遣を要請しました。しばらくして、ある技術者が南アフリカの空港に到着しました。彼は以外にも 20 代の若者でした。この若者に一体何ができるのだろうかと考えた現地の人たちは、すぐにアメリカへファックスを送りました。
- ・「自分たちに必要なのは、熟練した技術者で、改めて熟練し技術者を派遣してほしい。」という内容でした。これに対してシカゴの会社は、このように回答しました。「その若者が機械を設計した技術者です。彼だけが、その機会を直すことができます。彼の指示にすべて従ってください。」
- ・いかがでしょうか。私たちは自分の固定した概念に、固執してはいないでしょうか。創造神は、私の人生を設計されたお方で、すべてを知っておられるのです。このお方を信頼することが、「信仰によって」ということです。
- ・では、アブラハムが出て行ったその旅は、どのようなものであったでしょうか。

2)アブラハムは天幕生活をした

- ・行き先を知らないまま出て行ったアブラハムは、約束の地で外国人のように、天幕生活しました。神が与えると言われた地ですから、彼はどうして定住者として住まなかったのでしょうか。聖書は、アブラハムが甥のロトと別れた後、次のように述べています。

創世記

- 13:14 ロトがアブラムと別れて後、主はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。
- 13:15 わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。
- 13:16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。

13:17 立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。」

13:18 そこで、アブラムは天幕を移して、ヘブロンにあるマムレの櫨の木のそばに来て住んだ。そして、そこに主のための祭壇を築いた。

- ・土地のことについては、それほどはっきりと言及されていません。彼がエジプトへ下り、再び約束の地へ戻ってきた時、神はアブラムにこう言われました。 **創世記**

13:14 「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。

13:15 わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。

普通考えれば、これだけのお言葉をいただいたら、彼は定住するのが自然であったでしょう。しかし、彼はそうしませんでした。

- ・もしアブラムが自分の土地を所有していたらならば、彼は妻サラが亡くなった時、彼女の遺体を葬ることができたでしょう。彼はヘテ人からマクペラの土地を買いました。アブラムがこうした生活に耐えられたのは、揺らぐことのない土台の上に建てられた「信仰によって」歩いたからでした。そして、天の御国を待ち望んでいたからです。天の都を設計し、建てられたのは神ご自身です。

ヘブル人への手紙

11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

11:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

父祖アブラムは確かに、すばらしい生き方をした人でした。

- ・こうしたことから、ある方は自分の土地や家を持つべきではないと言います。そういう生き方をしている人がいても結構ですが、他の人にまで強制することではありません。借家住まいこそ、信仰的であるという考え方は、極端な聖書解釈です。土地を持っても、家を持っても良いのです。ただそこが永遠の住まいであるかのようになり、思って生きていることが問題です。私たちは注意しなければいけません。
- ・どんなに立派な家であっても、またみすばらしい家であっても、また持ち家であろうと、借家であろうと、私たちの永遠の住まいはこの地上ではありません。天にあるということが一番大切です。そのような考え方を持って生きることが、「信仰によって」生きるということです。
- ・天の都を設計し、建てられたのは神ご自身で確かです。人間が造る建物には限界があります。しかし、神は完全なお方ですから大丈夫です。
- ・この世にあって、外国人旅行者のように天幕生活をしたということは、不便や困難が伴うことを意味します。クリスチャンがこの地上の生活で、困難が伴うことは当然です。しかし、それに耐えることができるのは、天に私たちの住まいが用意されているという事実に基づきます。
- ・著者は、「堅い基礎の上に建てられた都」 (11:10) という言い方で表しています。地震などで、崩壊してしまう地上の住まいとは違います。確固とした住まい、であるということです。地上で堅固な家に住もうと思えば、かなりのお金が必要です。しかし、天の確かな住まいは、「信仰によって」保証されます。

- ・私たちが苦しみや困難に出会っても、先に希望（光）があるならば、生きることができます。

2 アブラハムの「自分史」は「信仰によって」である

1) 神は恥とされない

- ・アブラハム、イサク、ヤコブが旅人のように地上の生涯を送ったのは、約束の地が地上にあるのではなく、天にあることを確信していたからでした。
 - 11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。
 - 11:14 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。
 - 11:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。
- ・神は神の約束を信じて生きた人びとを、恥とはされませんでした。信仰を持って来る者を、神はどのように評価してくださっているかがよくわかります。
- ・これは慰めに富む深い言葉です。私たちは何度も神を悲しませてしまいます。失敗し、過ちを犯し、さらに神に背を向けてしまう者です。それにも関わらず、主を見上げ、主のみ言葉を頼りに生きて行こうとする人を、神は恥とはされないのです。何という幸いではありませんか。イエスはこう言われました。
 - ヨハネの福音書
 - 14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。
 - 14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。
- ・ここに聖書が教える祝福があります。

2) 生き方の根幹

- ・しかし、アブラハムの生涯を学ぶならば、彼は決して完璧な人ではありませんでした。しかし彼は「信仰の父」と呼ばれています。
- ・例えば、アブラハムは主の御心に背き、失敗しました。約束の地カナンが飢饉に見舞われると、神の約束の地であることを忘れてしまいました。そして食料豊富なエジプトの地へ逃げました。エジプトでは自分の妻サラを妹と偽りました。自分を守ることを優先しました。それは肉の弱いアブラハムの姿でした。
- ・では、アブラハムの子イサクはどうであったでしょうか。彼も同じように失敗しました。自分の妻リベカを、父アブラハムと同じように妹と偽りました。創世記
 - 26:9 それでアビメレクはイサクを呼び寄せて言った。「確かに、あの女はあなたの妻だ。なぜあなたは『あれは私の妹です。』と言ったのだ。」それでイサクは、「彼女のことで殺されはしないかと思ったからです。」と答えた。
 生ける神の前に偽りの証言をしてしまいました。
- ・またそのイサクの子ヤコブは、いかがでしたでしょうか。彼も兄エソウから長子の特権を奪い、父イサクを欺いて祝福を奪いました。

皆さん！ これらの人々を見ると、私たちと同じ弱さをかかえた人たちであったことが分かります。信仰が試されて、はじめて自分が分かります。

- ・それにも関わらず、彼らは神の祝福に与る民となりました。そして、神は彼らの神と呼ばれることを、少しも恥とはされませんでした。
- ・では一体、なぜでしょうか・・・？
⇒ それは「アブラハム契約」にあります。

私たちも同じです。失敗しても、正直に、素直な心で神の前に告白することです。そして、小羊イエスの血によって赦していただくことです。

- ・アブラハムは、動物を屠り神へ礼拝を捧げました。失敗を繰り返しても、生き方の根幹には神のみ言葉への信仰があれば、それで良いのです。速やかに罪を悔い改め、神の前に出ることです。神は私たちの神の子と呼ばれることを、少しも恥とはされません。それは神の恵みであり、私たちにとって大きな慰めとなります。なんという恵み、幸いではありませんか。

〔例 話〕 “すばらしい神のご計画”

- ・アメリカの田舎の丸太小屋に、ある病弱な男が住んでいました。かれの家の前には、大きな岩があって、人が行き来するのにとても不便でした。ある日、神が夢に出てこられ、このように言われました
- ・「愛する子よ。おまえの家の前にある岩を毎日押してみなさい」。その時から、病弱な男は毎日まじめに岩を押しました。8か月過ぎた頃、その男の心に疑いが生じました。どう見ても、岩の位置が変わっていないように思えたからです。
- ・彼は道端に座り、この8か月間、無駄なことをしたと思い泣き始めました。すると神が彼に尋ねられました。「愛する子よ、なぜそんなに悲しんでいるのか?」、「神様に言われて。この8か月間、希望を持って一生懸命岩を押しましたが、岩は動きませんでした。
- ・神は彼に言われました。「わたしはあなたに岩を動かせとは、言っていない。ただ押すように言っただけだ。さあ、鏡の前に行って、あなたの姿を見てごらん。」鏡の前にはった男は、あっと驚きました。鏡に映った彼の姿は、病弱な患者のようではなく、筋肉のついた力強い勇士のようであったからです。
- ・いかがでしょうか。私たちの生き方の根幹、それはどこにあるでしょうか。神が言われたお言葉に、忠実でしょうか。たとえ意味が不明であっても、神がお言葉をくださるならば、それに従順にしたがうことです。神は私たちに、すばらしい計画をお持ちです。神の幸いを受ける道、それは神がお語りくださる言葉を信頼することです。

まとめ

主 題:『信仰によって』とはどういうこと?

—約束の言葉に従う—

- ・今日、私たちは「信仰によって」生きるとは、どういうことか学びました。それは神への従順です。具体的には次の2点です。
 1. 神のみ言葉に聴き従うこと
 2. 生き方の根幹に神への従順を持つこと
 * God bless you!